

# 令和3年度 事業報告



「Be a Global Japanese! 一流の日本人になれ!」をコンセプトに、1歳児～5歳児の乳幼児を対象とした教育保育を行っています。

併設：御影小規模保育ルーム(神戸市小規模保育事業)



御影インターナショナルこども園は、開園から8年目を迎えました。日本人としてのアイデンティティを身に付け、世界中の人たちと友だちになれる人材を育てるという教育保育方針のもと、特色ある「MIK教育プログラム」

「英語イメージプログラム」「生活プログラム」の3つの柱によって、それぞれの個性を伸ばしながら発達段階に応じて生きる力を育みました。

一方で、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた1年でした。多数の感染者が発生し園内に感染が広がったため、休園、登園停止、保育時間の短縮、家庭保育への協力要請等の措置を講じ、感染拡大防止に努めました。

中核行事である運動会、みんなの発表会とも開催日、実施形態、観覧方法等を変更して、園児、保護者の期待に応えました。

さて、今年度の重点的な取り組みと結果はつぎのとおりです。

## ①幼小接続

県内の私立小学校との関係構築に注力し、保護者の期待に応え園児の進路について新たな途を開く努力をしました。

## ②環境整備と保護者満足度の向上

手狭だった4歳児クラスの保育室を2倍に拡張しました。

## ③地域コミュニティとの連携

コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、当初予定していた交流ができませんでした。

## ④広報の強化と財務改善

不測の事態が相次ぎ、組織的な取り組みができませんでした。

御影インターナショナルこども園  
園長 西野 雅二

## 御影インターナショナル こども園

設置場所：神戸市東灘区御影2丁目15-27  
定員：120名

## ■教育活動計画

### 1. 1歳児クラス

情緒の安定を第一に考え、保護者との連携を密にし、家庭生活とのバランスを取りながら保育を行いました。また、石井式漢字教育を取り入れ、国語教育の礎を養いました。

### 2. 2歳児クラス

前述の保育内容に加え、プレイマージョンとして歌、体操、絵本読み聞かせなどにおいて積極的に英語を使った保育を行いました。また、外部講師による体育あそび教室も継続して行うなど、心身の健全

な発達を促しました。

### 3. 3～5歳児クラス

英語イメージングプログラムを行いました。専任のイメージングディレクターが作成したプログラムに沿って、日々、外国人教員と日本人保育士が連携してクラス運営を行いました。

4～5歳児についてはCambridge Exam, Starters (ケンブリッジ国際児童英検スターターズテスト)を受験し、習得度の確認を行いました。

また、様々な分野の外部講師を招聘し、絵画造形、体育あそび、リトミック、ピアノカ、論語などの教室を定期的にかけて園児たちの興味と関心を広げ、豊かな感性を育むことができました。

#### ■幼小接続

小学校教育との円滑な接続を図る観点から、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確に示されたことにより、本園においても、卒園後の学びにつなげるために幼小接続に取り組みました。

小学校との連携を行うにあたっては、本園が県内有数の文教地区に立地していることから、私立小学校だけでなく、近隣の公立小学校ともコロナ禍の中、可能な限り情報共有を図りました。

## 御影小規模保育ルーム

定員：19名（0歳児～2歳児）

#### ■保育方針と保育目標

保育指針に基づき、支給認定を受けた保護者の児童に対し、特定地域型保育を提供しました。

#### ■保育活動計画

##### 1. 0～1歳児クラス

健やかな生活を確立できるよう環境を整えるとともに、健康や安全など日常生活に必要な基本的な習慣や態度が身につけられるよう働きかけました。1歳児からは、石井式漢字教育を取り入れ、国語教育

の礎を養いました。

##### 2. 2歳児クラス

前述の保育内容に加え、様々な体験ができる環境を整え、子どもの思いに共感しながら、豊かな感性を育むよう働きかけました。

## 社会連携・社会貢献

#### ■地域への貢献

本園では、地域の自治会と連携し、老人会と交流を図る機会を作ってきました。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、参加を予定していた行事がすべて中止になり、当初予定していた交流ができませんでした。

#### ■ボランティア活動、就業体験受入

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた事業、行事がすべて中止になりました。

## 環境整備

#### ■保育室の拡張

今年度は、教育保育施設整備の一環として、手狭だった御影インターナショナルこども園の4歳児保育室を拡張しました。同保育室のスペースは2倍になりました。これに伴い、教職員の休養室、更衣室を移設、整備しました。

#### ■ICT化の推進

保護者との連絡・情報共有、スタッフ業務の効率化のため、保育園管理システムを導入しています。お知らせ一斉配信、アンケート、ICカードによる登降園管理などの機能を活用し、保護者とのコミュニケーションの向上を図りました。また、園児情報ほか様々な情報の共有や、保育料請求などの業務効率化に役立てました。

## ■図書の実

保育士の読み聞かせや子どもたちが読書に親しむための絵本など、児童・幼児用図書の充実を図りました。「ふくろう文庫」による図書の貸し出しは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、前年度に続いて休止しました。

## ■安全管理、健康管理

乳幼児や小学生の安心安全を担保するため、職員全員が、施設・遊具等の安全管理、感染症の予防などの健康管理を徹底しました。担任は子どもの健康管理について、保護者との情報共有に努めました。

また、急病、非常災害などの発生時に備え、定期的に緊急時対応訓練を実施しました。

新型コロナウイルス感染症に関しては、感染予防の一環として全館で光触媒抗菌コーティング(酸化チタン)施工を、他園に先駆けて行いました。また、神戸市こども家庭局の指示に従って感染防止対策を徹底しました。

## ■職員研修

園内研修については、必要に応じて外部講師を招聘し、計画的に実施しました。園外研修についても、希望に沿って職員を積極的に派遣し、保育士の能力向上に努めました。

## 園児の受入

### ■園児・児童の受入方針

御影インターナショナルこども園では、保護者が教育保育方針・目標などを十分に理解したうえで入園していただくよう、入園説明会や親子面接の機会を利用し、本園の方針を懇切に説明しました。

御影小規模保育ルームについては、認可施設のため、神戸市からの割り当てにより入園者を受け入れました。

### ■入園説明会・施設見学

御影インターナショナルこども園では、体験型の

入園説明会や施設見学会などを開催しました。本園の方針を説明し、保護者のお子さまの教育保育に対する思いとミスマッチが生じないように努めました。

御影小規模保育ルームについては、神戸市へ支給認定手続きや利用申込みを行う際、多くの入園希望者に選択していただけるよう、施設見学会を実施しました。

こども園、小規模保育ルームとも、保護者等の個別見学を常時受け付けました。

## ■保護者満足度の向上

保護者満足度の向上を図り、保護者からの評価が高まることで園児募集の大きなポイントになることを職員一人ひとりがしっかりと自覚しました。満足度調査を定期的の実施し、更なる改善に努めました。

## ■SNSを活用した広報

本園では、日々ホームページの情報更新を心がけています。今年度からSNSを活用した広報活動をスタートさせる予定でしたが、コロナ禍の影響もあって不測の事態が相次ぎ、組織的な取り組みができませんでした。

## 主な行事予定

4月	1日 入園の会、進級式 26日～28日 クラス懇談会
6月	9日 春の遠足(こども園) 14日～22日 保育参観 15日～18日 個別懇談
8月	7日・28日 入園説明会
10月	14日 Halloween Day Camp 19日・20日 Let's go to the Jungle! 29日 ハロウィンパーティー
11月	5日 秋の遠足(小規模) 18日・19日 保育参観 18日～26日 個人懇談
12月	18日 みんなの発表会(こども園1～2歳) 24日 クリスマス会
2月	25日 発表会遊び(小規模)

3月	1日・10日・24日 みんなの発表会(こども園3～5歳) 22日 卒園の会
----	---

その他行事

誕生日会 など

## 児童・教職員数

(令和3年5月1日現在)

### ■在籍児童数

◎御影インターナショナルこども園

クラス名	収容定員	在籍児童数
1歳児	12	7
2歳児	18	11
3歳児	30	28
4歳児	30	23
5歳児	30	21
合計	120	90

◎御影小規模保育ルーム

クラス名	収容定員	在籍児童数
0歳児	19	2
1歳児		8
2歳児		5
合計	19	15

### ■職員数

園長	副園長	英語 教員	保育士	事務 職員	計
1	0	3	11	3	18

## 財務関係

### ■財務改善に向けた取組

御影インターナショナルこども園は、「安心安全」を最優先に、ニーズに合った特色ある教育保育に取り組みながら、健全な財務体質に向けた改善に努め

ました。平成30年度から人件費をはじめとする諸経費を見直し、全職員が経費削減の意識を持って、無駄を省きながら教育保育の質の向上を図ってきました。

今年度は、園児募集にかかる新たな施策に着手するとともに、引き続き、財源をより有益に活用できるよう、教育保育の質の向上に寄与する目的意識を持ち、無駄を省きながら収支の改善に努めましたが、コロナ禍の中、不測の事態が相次ぎ、計画的・組織的な取り組みができませんでした。